

第 71 回  
東北地方交通審議会  
船員部会議事要録

平成 26 年 9 月 19 日  
東北地方交通審議会  
船員部会事務局

# 東北地方交通審議会

## 第71回船員部会

日 時 平成26年9月19日（金） 15:30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 長谷部部会長、村上部会長代理、箭内委員（欠席）、  
船津委員

労働者委員 : 高橋委員、正路委員、野田委員（欠席）

使用者委員 : 鶴本委員（欠席）、佐藤委員、湯村委員

運輸局 : 矢島海事振興部長、村木海事振興部次長  
鈴木海事振興部船員労政課長  
佐々木労政係長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について

(2) その他

### 配付資料

- 資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料（平成26年7月分）
- 資料2 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）
- 資料3 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）
- 資料4 新規求人・求職数（全国）
- 資料5 有効求人・求職数（全国）
- 資料6 有効求人倍率（東北管内）
- 資料7 有効求人倍率（全国）
- 資料8 新聞情報

## 議 事 概 要

### ◎開 会

【村木海事振興部次長】

〔第71回船員部会の成立について報告〕

〔配付資料確認〕

### ◎議 事

(1) 管内の雇用状況等について

〔鈴木船員労政課長より資料1から資料7に基づき報告〕

【長谷部部会長】

ただいまの報告につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら挙げて下さい。

高橋委員。

【高橋労働者委員】

東北管内の求人の漁船のその他ですけども、今月28件と先月より18件ほど多いですが、内容的にはどのような内容か教えて下さい。

【鈴木船員労政課長】

先月が10件とその前の月に比べて大幅に減少したという部分がありますが、件数的には前々月並みになっています。内訳を言いますと、各業種ばらばらなんですけども、中型イカ7件、漁業取締船6件、調査船4件、練習船2件、小型サンマ2件、カニ籠その他2件となっています。

【高橋労働者委員】

6件というのは、取締船ですか。

【鈴木船員労政課長】

取締船です。

【高橋労働者委員】

4件が調査船ですか。

【鈴木船員労政課長】

はい。

【長谷部部会長】

よろしいですか。

【高橋労働者委員】

はい。

【長谷部部会長】

他にいかがでしょうか。ございませんか。

【高橋労働者委員】

もう一ついいですか。東北管内で、底びきで12件の求人が出ていますけども、成立した方々の求人ですか、内容的なものを教えて下さい。

【鈴木船員労政課長】

そうですね。成立については、詳細の方で底びきの成立状況が記載してあります。

【高橋労働者委員】

石巻の成立ですか。

【鈴木船員労政課長】

そうですね。その部分が、この12件の中に含まれています。

【高橋労働者委員】

はい。

【長谷部部会長】

他にございますか。

必ずしも日本の経済全体の動きと連動しているわけではないということ。個別の事情がたくさん影響しているんだと思いますが、こんなところで整理してみたらどうでしょうか。長期的にずっと見ていきたいと思います。どうもありがとうございます。

それでは、ご了承いただいたということで、議題の（２）その他に移らせていただきます。

（２）その他

【長谷部部会長】

委員の皆さんの方から情報提供等、よろしくお願いします。

労働者委員の方からいかがでしょうか。

【高橋労働者委員】

それでは、私の方から。

新聞の方でも大分報道されているんですけども、IWC総会についてですが、15日からスロベニアのポルトロージュで開かれました。昨日終わっていますけども、日本が提案していた小型捕鯨に関しての17頭の捕獲、これは否決されたということと、ニュージーランドの方から、日本の調査捕鯨を行うにあたって、科学委員会の方に計画書を出しているんですけど、それを本委員会の方でも審議するというようなのがニュージーランドから出されまして、採択されたということです。

あともう一つ採択された内容というのが、一昨年、グリーンランドの先住民生存捕鯨枠ということであったんですけども、これは前回否決されましたけども、今回は採択されました。

捕獲内容については、ミンククジラが176頭、ナガスクジラが12頭、ホッキョククジラが2頭、ザトウクジラが10頭というような内容です。これが15年から18年の4年間の捕獲枠ということです。

あと、日本では、今年11月には来年度の調査計画を科学委員会の方に提出することを、この会議で表明しております。

今年の冬の調査については、捕獲はしないで目視調査が計画されています。

以上です。

【長谷部部会長】

基本的に決定に従うということなんですか。

【高橋労働者委員】

日本に帰ってきてからまた色々あるでしょうから、その中で議員さん、捕鯨連盟

の方々、色々な関係者との調整の中で多分決まってくるものと思います。

それで今現在捕鯨に携わっている方が200名ほどいるんですが、南極海の方に行っている捕鯨船団に関して、その人たちがこれからどういう対応をしてくるか、それも一つの問題になってくるとは思います。

【長谷部部会長】

鯨をとる技術というのは、200人位いつも出ていることによって維持できるんですか。そういうものなんですか。

【高橋労働者委員】

そうですね。今の調査の内容ですと、やはりそれ位の人数が必要だということですね。

【長谷部部会長】

もっと競争がないと技術が伝承されないのではないですか。

【高橋労働者委員】

乗組員にしろ、こういう不安要素があると、やはりこれじゃ生活にならないということで、違う職業に就く方も出てくる恐れもありますので、それで技術の伝承が途絶えてしまうという恐れも出てきます。

【長谷部部会長】

若い人はいるんですか。

【高橋労働者委員】

若い人は何人か入っているようですけども、やはりこういうふうなシーシェパードの件もありますし、危険だということで、違う方向に進む方も出ています。

【長谷部部会長】

安住はしていただけないと、分かりました。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。正路委員はないですか。はい、分かりました。

それでは、使用者委員の方からはいかがでしょうか。湯村委員、お願いします。

【湯村使用者委員】

それでは、私から。

先日、9月5日ですが、内航の業界で内航船員確保対策連絡協議会というのが昨年からはまりまして、今回第2回目ということで、私東北の代表として出席してきました。

各地の船員不足の状況等、船員確保への活動状況等の発表がされたんですけども、東北は皆さんご承知のとおり、（東北には）なかなか内航事業者が少ないということで、船員の雇用も進まないというような状況がずっとしばらく続いているんですが、そういったことで、昨年ですけども、海事振興部さんの方に管内の水産高校の就職希望状況等を調査いただけないかということでお願いしていたんですけども、この直後の部会で、早速動いていただきまして、5月、6月の初めぐらいですか、資料をまとめていただいたのがあり、早速全国の事務局の方に連絡はしたんですが、いまいち反応がちょっと薄くてどうなったのかなと思い、今回改めて具体的な数字を示して全国の皆さんの前で東北の状況を発表したんですね。毎年水産高校や先生（船津委員）のところの学校（国立宮古海上技術短期大学校）も含めて500名程度の

卒業者がいるんだけど、なかなか東北の事業者では採用し切れていないと。

今回、この春はたった1名しか採用できていない状況だということで、全国の同じ内航の事業者に対して、「東北はこういった状況なので、是非東北の方に目を向けてくれないか。」ということで具体的な数字を挙げて発表したところ、非常に注目されまして、信じられないということで、例えば四国の方ですとか、全国は有効求人倍率が2点何倍というような話ですけども、地域によっては4倍を超えるような状況で実際もう船員がいなくて船が動かさないというような状況が何件も出ているんだそうです。

そういったことで、信じられないと。東北は、まだそんなに船員希望者がいるのかということで、改めて皆さん驚かれたというような状況がありまして、実際数字を挙げますと、東北、内航だけに限って内航に関する数字だけを抽出して、東北と東北以外の地域ということで比較しますと、有効求人倍率が東北の場合は、内航は0.14ぐらいなんですよね。

今回7月のデータを見ますと0.12だけの数字なんですね。それに対して全国、東北以外の地区は2.4倍とかそれ位の数字でかなりの差があるんです。

そういうことで、是非、東北の事業者ができないので他の地域で採用、船員になりたい子が年々増えている状況もあるので、是非東北の方に目を向けてほしいということで、ちょっと東北の状況をPRしてきました。その結果がこうした項目、また資料に反映されてくると、数字が出てくるのを期待しています。以上報告です。

**【長谷部部会長】**

ありがとうございます。でも、何か今インターネットを通じてマッチングをするというシステムがあるということをやっと前に確認しましたけども、全国的にそういう移動が既にでき上がっているのに、なかなか内航関係では東北の方に目が向いていないというのはちょっと驚きですね。

**【湯村使用者委員】**

そうですね。地元の人を採用したいというのは、やっぱり東北にもありますし、どこの地域にもあるし、中には、以前東北の船員を採用したことがあるんだけど、結局合わなくて船を下りちゃって、その人が地元に戻って、大変いじめられたと、「あそこの地区の船主は、ろくなもんじゃない。」みたいな悪口を言いふらしたそうです。その影響で、その後、全然東北から希望者がいなくなったというような話もちょっと聞きましたけども、そうした色んなことがあるんだと思います。

あとは、東北の人間の立場から言えば、ちょっと東北の人間というのは、社交性に欠ける面もあると思うので、なかなか外に出たがらないというようなこともあると思うんです。

ですから、その辺のことを、精神的な部分をクリアできれば、もっと東北から船員を採用できるんじゃないかということでありました。

**【長谷部部会長】**

学校側ではどうですか。やっぱり出て行きたがらないですか。

**【船津公益委員】**

いや、8ヶ所転職しましたけども、あまり出て行きたい、出て行きたくないというのは、地域性はそんなにはないような感じはいたします。

ただ、東北だからこうだということ、そういう者も確かにおりますけども、その傾向は特に強いというわけではないと思います。

今のお話し、ちょっと繋がりなんですけども、求人に関最近九州の会社からも、うちの方においでいただきますよね、求人活動に。昨年度よりも今年の方が、遠くからより多くの会社に来ておりますので、やっぱりその辺は厳しいのかなと思います。

それと、あと私ども高校をPRで回って、と言いますか、ちょっと話戻しますけど、先月末、8月末の時点で国土交通省の海事局長の方から定例会見で発表があったんですけども、うちの海技教育機構も新人船員の養成の枠を10名増やしまして、総枠370名のところを、今380名に10名増やしたというのを先月末に発表しまして、ホームページ等に9月頭に出して、具体的に言いますと、宮古が40名のところ45名、清水が110名のところを115名と、2校が5名ずつ増やしたということで、業界のニーズを受けて対応したというところなんですけども、ホームページに出したところ、早速今度はNHKさんの方から、ある意味ありがたい話なんですけど、最近、船員というのは、震災の時に非常に海運というのは大事だということが分かったというところなのに、求人は今こういう状況になっているということも、もうちょっとNHKからもアピールしたいということで、ただし、これは岩手県内版で、ちょっと狭いんですが、そういう取材も受けるということで、今話が進んでおります。

あと、水産高校とか高校を回っていて感じるんですけども、というか高校側から言われるんですけども、水産高校が普通高校と統合した学校が何校かございます。それで、水産高校の名前が変わった学校もあります。

水産という名前がなくなって完全に水産海洋系の名前がなくなると、今まで船に進んでいた人が全く船に進まなくなると、船はもう就職の対象外になって、1学校で2~3人しか船の方に行かないんですよ。

学校の名前が変わっただけで、完全に水産海洋という名前がとれるということですよね。ということで、私ども、元々水産高校だったところだからといって、PRに行くんですけども、何か、まるっきし先生方の認識が変わってしまっていて、あと水産という名前を海洋に変えただけでも、ちょっとそこは減ると言われております。

もう海洋の名前まで捨ててしまったら、もう完全に普通の陸の学校になってしまうということも言われております。

#### 【長谷部部長】

名前が大事だと。

#### 【船津公益委員】

あと、ちょっと長くなりますけれども、会社の方が来られたところの情報によりますと、最近前触れもなく急にぽんと辞める職員が増えてきたということが何社かから入ってくるんです。

以前は、何かこいつ辞めそうだなと言うと、辞めていったなんて感じの前触れもあったらしいんですけども、もう、仕事もちゃんとしているし、楽しそうにしている、全然辞める原因がないのに突然ぽんと辞め出したというのを何社か、もう3~4社から聞いています。

今求人の数がどんどん増えてまいりまして、自分の会社で求人が何名出ているとか、今人がなかなか集まらないという状況は船員さんもやっぱり知っているわけな

んです。

そうしたら、友達同士間でインターネットでやりとりして、そういう情報が入って、だったら向こうの方が休暇も多いし、給料もいいし、何か良さそうだなということで、突然ぽんと辞めていくというのが何か出てきて、ただそれも同じ業界、例えばタンカー業界同士でしたら、それはまた会社同士の問題にもなりますので、そのところはできるだけ抑えるようにはしているということなんですけど、業界が全然違う業種の方に入りますと、もう、そこも歯どめがきかないもんで、意外と違う業種の方に流れていくのが増えてきたというのは、よく耳に入ってくるようになりました。

【長谷部部会長】

大変ですね。

【湯村使用者委員】

引き抜きが横行しているというのは。

【船津公益委員】

会社として引き抜きをしているわけではないんですけども、ただそういう情報を船員さんが知ってしまった、船員同士でやってしまって、だから会社としてはある意味ありがたいんだけど、ちょっと迷惑だとか、困るところもあるらしいんです。

【湯村使用者委員】

我が社でも、最近2人位パパッと、ありますね。

【佐藤使用者委員】

メールでやりとりしているんだからね。

【船津公益委員】

給与というよりも、休暇が意外と間隔が狭いというところが、何か、そっちにやっぱ行きやすいとかいうことを聞いていますね。

3ヶ月で1ヶ月（休暇）というパターンも、会社によっては、ちょっと長くなって休暇も長くなるんでしょうけども、このスパンが長くなるとちょっと逃げられやすくなるんじゃないかなというような感じで受けておりますけども。

【長谷部部会長】

なるほど。ちょっと興味深く聞かせていただきましたけども、というように事態を合わせていくか、ちょっと、じっと見ていきたいと思うんですが、観光船の方はどうですか。

【佐藤使用者委員】

今年の夏、恐らく天候不順と、高速料金が上がったのと、それから円安に燃料高というトリプルパンチのような状況で、それに、今最低賃金改定の諮問がされるということで、なかなか大変な状況だなという感じでございますけども、もう1ドル110円になるのも目の前ですからね。ますます燃料が上がって、幾らか乗組員には減量運転とか経済運転をするように指導しているんですが、なかなかそこまでやっても追いつかない状況ですね。

うちでも、しばらく、十数年ぶりで運輸局に甲板員の求人出しまして、宮城水産（高校）の方に書類を送ったら、来週に職場訪問に行きたいということで、今日連



絡あったんですけど、1人だけでも採用しようかなと思って今計画しています。

内航さんとかと違って、うちの方は通勤船員ですから、陸上で働いているのとはほぼ同じというか、条件的には休暇は多いし、陸上よりはいいかなと思っているんだけんどもね。

業界全体とすれば、なかなか高齢化が進んで新しい人材もいないという事業者の方が多そうですね。

【長谷部部会長】

今年の夏はどうだったんですか、観光客は。

【佐藤使用者委員】

今年は、全国的に天候が悪くて、旅行する自体がやっぱり心理的にまいてしまいうよね。だから去年の80%台ですかね。

だから、宮城県の方では、色々キャンペーンをやって増えたような数字を見せていますけども、実態はそうではない。1人の人間を2回位カウントしています。

例えば船に乗ってホテルに泊まって食事するというか、そうすると3回計算するんだよね。そういう数字を出していますから。

だから実態とは全然違う。東京電力の風評被害から脱出しつつあるということをお話しされていますけども、それとはまた別に、風評被害以外の要因がたくさんあるわけです。

ですから、高速道路の料金、まず50%位下げてもらえば相当経済効果があるんじゃないかなと思ってはいますけども、ただ、全国的に同じ業界では、中国四国の方では高速料金を上げてくれと言っているのね、フェリーとの競争から。

だから、日本旅客船協会では色々陳情する中では、高速料金を下げるのはご法度なんでしょうね。ただ、東北の事業者とすれば殆ど観光に関連しているものですから、そういうことを、海事局に言うわけにもいかないんだね、これは。

【船津公益委員】

外国人の観光客が増えたりはしないんですか。

【佐藤使用者委員】

いや、増えているところは一部。首都圏を絡んで箱根とかね、そっちの方は増えているんだけんども。

【長谷部部会長】

東北は行きませんか。

【佐藤使用者委員】

なかなか難しい。

【長谷部部会長】

中国人の観光客なんかも増えているとお聞きしましたけども。

【佐藤使用者委員】

韓国人のお客さんてどこに行っているんだかね。殆ど見かけないね。

いや、かなり中国と同じぐらいの人数は来ているんですよ、日本に。でも、観光地にあまり見かけないんだね。

【長谷部部会長】

なるほどね。なかなか素敵なニュースなんかないんですね。大体今年の8割の傾

向だというように考えておいてよろしいですか。

【佐藤使用者委員】

そうですね。

【長谷部部会長】

分かりました。ありがとうございます。

何か、他にはございますでしょうか、高橋委員。

【高橋労働者委員】

今月の6日に、運輸局主催の就職セミナーがあったと思うんですけども、その内容というのはまだ出ていないんですか。

【鈴木船員労政課長】

はい、まだ集計していないんですけども、参加事業者は前にご説明したとおり15社、参加したのは、宮古の海技短大の1年生が主で、2年生とかも若干いたんですけども、他に気仙沼向洋と宮城水産の生徒さんに来てもらいまして、大まかな数字で56名ですかね。一般の方も何人が参加されて、56名参加だったと思います。

あと、色々なアンケートの集計の方は、まだ手を付けていないので、うちの方の数字がまだ出ていません。

【高橋労働者委員】

一般の方といたら、本当の数名位ですか。

【鈴木船員労政課長】

はい、一桁だったと思います。

【高橋労働者委員】

一桁ですか。

【長谷部部会長】

よろしいですか。

【高橋労働者委員】

あともう一つなんですが、交通政策基本法が去年の11月にできたんですけども、その後基本計画というのが策定されていると思うんですが、その進捗状況というのはどうなっているのか、分かっていたら教えてほしいんですけども。

【長谷部部会長】

分かっているんですか。

【村木海事振興部次長】

詳しい情報は入ってきておりません。

【矢島海事振興部長】

それでは分かり次第、次回に。

【長谷部部会長】

では、次回以降ということでよろしいでしょうか。

【高橋労働者委員】

はい。

【長谷部部会長】

では、よろしく願いいたします。

湯村委員はいかがでしょうか、いいですか。

もし他になければ、本日の議事はこれで終了としたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）では、終了とさせていただきます。

◎閉 会